

令和 5 年度 連携研究スキームによる研究（委託研究課題）
研究成果等概要報告書

		課題番号	23837899
研究テーマ名	農産物・食品の輸出制限的措置による世界の食料需給・貿易構造及びフードセキュリティへの影響に関する研究		
委託研究課題名	農産物・食品の輸出制限的措置が先進国とグローバルサウスの食料需給・貿易構造に及ぼす影響に関する研究		
研究実施期間（西暦）	2023年度 ～ 2025年度（3年間）		
代表機関・研究開発責任者	国立大学法人 筑波大学 教授 柏木 健一		

1 研究の進捗状況等

本研究の目的は、農産物・食品の輸出制限的措置の経済的・政策的誘発要因を分析し、同措置が食料需給と貿易構造に与えた影響を多角的に分析することにより、SDGs 達成に資するフードセキュリティの確保を図ることである。2023 年度は、以下4つの研究項目に分かれて、輸出制限的措置に関する先行研究を包括的にレビューし、重点分析対象地域・国を特定するとともに、輸出制限的措置導入をめぐる歴史的・制度的背景を精査の上、同措置が食料需給や貿易構造、家計の消費行動に与えた影響の実証分析に関するデータを収集・整理した。これにより、次年度から実施する調査・分析の準備を整えた。

① 輸出制限的措置の誘発要因分析と WTO 農業協定の考察

農産物・食品に対する輸出制限的措置に関する内外の先行研究の渉獵を完了し、輸出制限的措置が発動される政治経済学的な要因の整理は、ほぼ終了した。他方で、そうした既存の要因で近年のウクライナ危機に起因する輸出制限的措置の発動要因が説明できるかの検証は、現時点では実施途上である。また、今年度の研究成果として、日本貿易学会第 62 回全国大会での研究発表を基にした著書（分担執筆）が刊行された。

② 米国の輸出制限的措置が食料需給と貿易構造に与えた影響評価

米国の輸出制限措置について関係資料の包括的収集とレビューを実施した。来年度以降の研究を見越し、基本的な視点と考え方を整理し、短文の形でポイントをとりまとめ公表した。共通する点は、米国の場合、国際情勢を考慮した上で常に自国にとって最善の方法を選択するが、（ア）最終的には経済的な観点、より具体的には、潜在的なビジネスの展開可能性を極めて重視しているという点、（イ）食料安全保障の根幹に据えるべき戦略品目に対する考え方、そして、（ウ）食料安全保障には複層的な見方が不可欠という点、がより鮮明となった。具体的事例の分析については来年度に継続検討を実施する。なお、本テーマに関する今年度の研究成果は、論文等 4 件、翻訳等 1 件であった。

③ 輸出制限的措置が食料需給と貿易構造に与えた多角的影響評価

農産物・食料の輸出制限的措置に関する影響評価に関連する諸外国の先行研究調査を実施した。特に、部分均衡分析モデルによる国際価格、生産者価格への影響評価から、近年の食料純輸入途上国の輸入量、食料不安者数の変化など食料安全保障に直接関係する評価や、応用一般均衡モデルで経済厚生等の変化を通じた制限的措置の有効性評価等に至る研究系譜を確認した。

④ 輸出制限的措置が食料輸出入国の需給構造に与えた影響評価(アジア・中東・アフリカ諸国)

穀物輸出に関わる貿易ネットワークを時系列的に整理し、2000年以降の輸出規制と食料貿易構造に関する文献レビューを開始するとともに、関連データセットの構築作業を進め、輸出規制を実施した国からの輸入に依存する対象国を確認した。また、国際機関等が公開するマイクロデータの利用可能性を確認し、需要パラメータ推定のための消費モデルについて検討し、プロトタイプを作成を行った。輸出規制が家計レベルのフードセキュリティに及ぼす実証研究をレビューするとともに、食料価格上昇が中東・北アフリカ諸国の社会の不安定化に及ぼす影響を国レベルのパネルデータを用いて分析した。上記を踏まえ、次年度のアジア、中東、アフリカにおける消費調査実施のデザインの検討を開始した。

(注1) 課題番号は、e-Rad で付与される課題 ID (8桁) を記載すること。

(注2) 全研究期間をととしての研究全体の進捗状況を5行程度簡潔に記載してから、当該年度に研究を実施した研究項目ごとの進捗状況を3～5行程度簡潔に記載すること。

(注3) 学会発表、論文発表等成果等公表の状況を e-Rad で報告するとともに、リストを添付すること。

(注4) 農林水産政策研究所のホームページにて公表するため、未公表データや知的財産等に関する事項については、十分に注意して作成すること。また、公表できる内容のみを記載すること。

令和5年度 連携研究スキームによる研究(委託研究課題) 研究成果リスト

著書

1. 作山巧「自由貿易と日本の食料安全保障」岩田伸人編著『WTO 体制下の貿易政策: 過去・現在・将来』文眞堂、123-142 頁、2024 年.

論文等

1. 三石誠司「『食肉』と『コメ』の安全保障」『生物工学会誌』、第 101 巻、第 12 号、643 頁、2023 年 12 月.
2. 三石誠司「米国から見た中国と日本－穀物・食肉の輸出先として」『Agrio』、0846 号、5 頁、2024 年 1 月.
3. 三石誠司「過去の教訓から将来を考える－中国のアフリカ豚熱 (ASF) から我々は何を学ぶか」『養豚情報』、12-16 頁、2024 年 1 月.
4. 小泉達治・三石誠司「座長解題/リスク・不確実性が増大する世界食料市場とフードシステム－食料の安定的な調達に向けて」『フードシステム研究』、第 30 巻、3 号、129-133 頁、2023 年.

翻訳等

1. McBride 他『新ミレニアムにおける米国のコメ生産－構造変化・実践・コスト』三石誠司 翻訳・解題『のびゆく農業－世界の農政－』、1061-1062 号、2024 年 1 月.